

AVSは、募集で終わらず、参加後まで見守る運用基盤です

関係者の役割



AVSが支える「参加後の運用」



3団体に絞り、「常連」と「新規」の2つの参加導線を小さく試します

既存のWeb・LINE・窓口は継続利用



- ✓ 現在の情報発信・連絡手段は残す
- ✓ 実証対象活動のみAVSでも運用
- ✓ まず活動数の多い3団体程度に限定



実証対象：
活動数の多い3団体程度

想定する3団体（例）

- 清掃・美化活動
- 子ども支援・学習支援
- 高齢者支援・見守り活動
- …など

A | 既に継続参加している人

既に活動に参加している人の継続を、よりスムーズにする導線を検証します。



検証ポイント

- ・ 出欠確認・活動記録が運営負担を減らせるか
- ・ 活動後の案内やインセンティブ情報が継続参加に効くか



B | これまで参加していない人

これまで参加していない人が、広報から参加するまでの導線を検証します。



検証ポイント

- ・ 新規層がAVS登録から参加まで進めるか
- ・ どの広報経路が参加につながるか



この実証で
分けて見ること



1 対象を絞る

活動数の多い3団体程度から開始



2 常連層を見る

出欠確認・履歴化・継続案内を確認



3 新規層を見る

市広報等から登録・参加までを確認



団体を絞り、常連層と新規層を分けることで、運営負担と参加導線を同時に確認します。

AVSは、活動に合わせて「進め方」と「案内範囲」を変えられます

活動の性質に応じて、募集方法・調整方法・案内範囲を切り替えられます。

1 日時確定型

地域清掃／イベント／講座



日時・場所が決まっている活動は、そのまま募集できます。

2 応募後調整型

見守り／付き添い／生活支援



相手や条件に合わせる活動は、応募後に個別調整できます。

3 限定案内型

研修済みボランティア／登録済み協力者／学生限定



誰にでも公開せず、条件を満たす対象者だけへ案内できます。



今回の実証で
使いやすい形を選ぶ

1

既存活動の中から、
試しやすい活動を選ぶ



2

活動に合わせて、
日時確定・調整・限定案内を
使い分ける



3

まずは2～3活動で、
運用負荷と参加導線を
確認する



活動内容や対象者に合わせて運用を変えられるため、現在の事業フローに合わせて小さく試せます。